

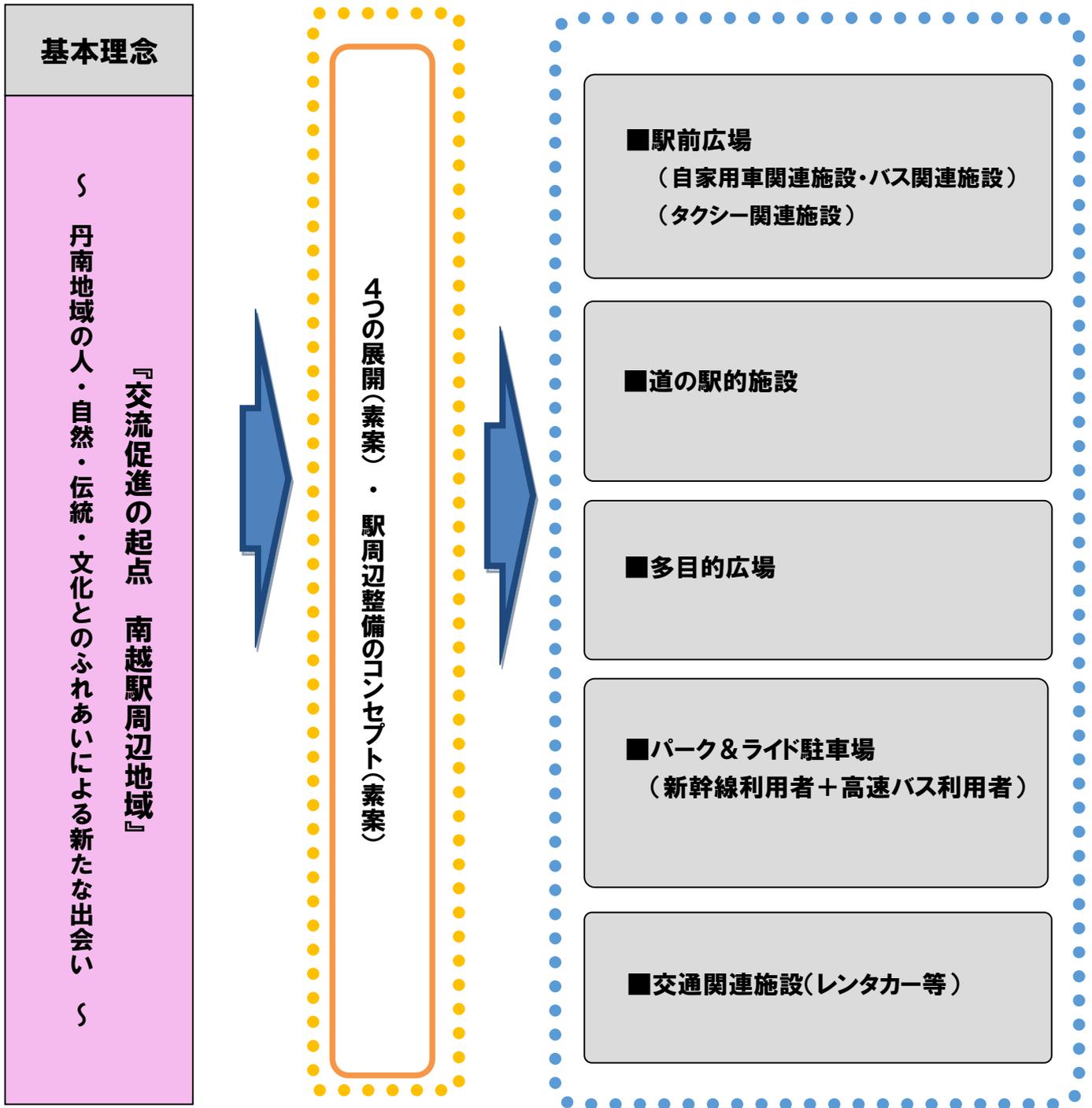
北陸新幹線南越駅周辺整備基本計画策定委員会

第4回資料

第4回資料 目次

1	第4回委員会の検討内容	1
2	基本テーマの検討	
(1)	駅周辺整備のコンセプト検討	2
(2)	道の駅的施設等の検討	6
(3)	2次交通の検討	12
(4)	配置計画	17

1 第4回委員会の検討内容



駅周辺整備のコンセプト検討

道の駅的施設等の検討
2次交通の検討
配置計画

2 基本テーマの検討

(1) 駅周辺整備のコンセプト検討

① 意見等の整理

越前市のまちづくりビジョン（第1回委員会）

【新市建設計画】

- 人口減少時代を見据え、将来世代の負担増に繋がる都市拡大型のまちづくりから成熟型のまちづくりへと転換を図る
- 2つの「まちなか」の継承と創造的再生を図る
- 既存の地区生活拠点とのネットワーク化を図る
- 住みやすい「コンパクトで持続的に発展するまち」づくりを進める
- 南越駅(仮称)は、広域交流の起点として整備を行う

【まちづくり懇話会】

- 南越駅(仮称)は、丹南地域の新たな玄関口として交通結節点に特化した機能を整える。
 - (1) 広域交通拠点として、周辺地域と連携したアクセス機能を構築する
 - 既存の多様な地域資源の魅力を高め、北陸新幹線開業のインパクトの最大化を図る
 - (2) 歴史文化や伝統産業、里地里山文化、自然環境などの多様な地域資源の魅力で、まち全体のイメージを高める。
 - (3) 時代に合わせてデザインを洗練させたり、地域資源同士を結び、総合的な魅力の向上を図る
- 丹南地域全体の広域連携で2次交通の整備や地域全体の活性化に取り組む

- ネットワーク型コンパクトシティにおける広域交通の拠点
- 2つの「まちなか」及び地区生活拠点の中心に立地
- 丹南地域の新しい玄関口

広域交流の起点

ネットワーク型コンパクトシティ：越前市では、二つの都市生活拠点に集積されたインフラと機能を維持活用しながら、その継承と創造的再生に取り組み、既存の地区生活拠点とのネットワーク化を図ることで、住みやすいコンパクトで持続的に発展するまちづくりを進めている。

委員会で出された意見(第2・3回委員会)

【広域交通拠点としての基本的な考え方】

- 鉄道利用者以外の利用を見込めるような機能を検討すべき
- 伝統産業がたくさん集積する優位性を活かした、地域の産業力を強化するための契機
- 丹南地域全体のポテンシャルの引き上げ
- 既存の地域資源の活用と連携
- 工芸の里や2つの「まちなか」への誘導

【越前市や周辺市町の現況に関する委員会での意見】

- 越前市は、製造品出荷額等が県内第1位で、県全体の2割を占めているモノづくりが盛んな地域
- 越前市には、越前和紙、越前打刃物、越前箆笄の3つの国指定伝統的工芸品の産地が集積。周辺市町にも点在
- 豊富な観光資源をつなぎ、生かすことが重要
- 県内でも有数の豊かで良好な田園が広がっている
- 今まで大事に温めていたものを出す契機

【導入施設に関する委員会での意見】

- 新幹線利用者だけでなく、国道8号や北陸自動車道利用者もターゲットとした駅舎外の観光案内機能
- 地域住民も利用できる地場産品の直売所
- 地域住民や地元の大学が使い、来訪者も参加できるイベントスペースや多目的広場
- 駅に滞在するだけでなく、越前市の各エリアや伝統産業が多い丹南地域の周辺市町に足を運んでもらえるような機能
- 道の駅には、機能や配置等に多くの先行事例があり、南越駅(仮称)に求められる機能と重なる
- 災害時に防災機能が発現するようなスペースがあってもよい。
- 飽和状態の北陸自動車道武生ICに設置されている高速バスのパーク&ライド駐車場を補完する機能

次世代を担う若者からの提言 (第1回委員会資料参照)

- 地域住民と来訪者のふれあい
- 伝統工芸品の販売
- 日野山の自然を活かした地域づくり
- 都会で生活に疲れた人たちへの癒しの空間。田舎の魅力をアピール
- 米、そば、かにに焦点をあてた、福井らしい思い出づくり



- 新幹線、国道8号、北陸自動車道の高速・広域交通網が集積する地の利を生かす**
- 温めてきた多様な地域資源を魅せ、つなぎ、磨き上げる**
- 多様な人がふれあうことにより、新たな創造を生み、地域活性化に寄与する**
- 四季ごとに表情を変える田園と日野山から構成される癒しの空間**

② 4つの展開

(1) 「交流の起点 ～交通結節点と地域資源への誘導の場の創出～」

- 地域の中心に位置し、国道8号や北陸自動車道と近接する地の利を活かし、地域外から活力を呼び込む広域交通拠点(ゲートウェイ)の位置付けを確立し、2つのまちなかの交通結節点(ハブ)や地域資源へ誘導する役割を担う
- 災害時には、交通結節点を活かした防災機能が発現するような役割を担う。

(2) 「伝統・文化とのふれあい ～伝統・文化、匠の技との出会いの場の創出～」

- 越前国府 1,300 年の悠遠な時が生んだ伝統と文化、古代伝説の時代から継承と創造を繰り返す匠の技との新たな出会いを創出する役割を担う

(3) 「人とのふれあい ～来訪者と地域住民の交流の場の創出～」

- 新幹線のみならず、国道8号や北陸自動車道からの来訪者と、地域住民の新たな交流を創出する役割を担う

(4) 「自然とのふれあい ～豊かな自然を感じる、癒しの場の創出～」

- 田園や日野山など豊かな自然環境を感じとることができ、心地よい癒しの空間を創出する役割を担う

② 駅周辺整備のコンセプト

(素案1)

『 伝統・文化・自然を未来につなぐ交流空間 』

南越駅（仮称）は、丹南地域の広域交通の玄関口として、集積する伝統産業の優位性を活かすなど、地域の伝統・文化・自然を情報発信し、観光・交流の起点として地域の活性化に寄与する。

さらに、国道8号や北陸自動車道武生ICに近接する地理的特性から、新幹線利用者以外の利用を見込めるような道の駅的な機能や防災機能を付加し、賑わいや安心・安全をもたらすとともに、地域住民にも親しまれる交流空間としての整備を目指す。

(素案2)

『 伝統・文化・自然による

新たな出会いを創出する交流空間 』

南越駅（仮称）は、丹南地域の広域交通の玄関口として、集積する伝統産業の優位性を活かすなど、地域の伝統・文化・自然を情報発信し、観光・交流の起点として地域の活性化に寄与する。

多様な人と今まで温められてきた伝統・文化がふれあうことにより、「融合と創造」が生まれ、地域全体に活力を与える。

(素案3)

『 伝統・文化を未来につなぐ

緑に囲まれた癒しと交流の空間 』

伝統産業が集積する丹南の玄関としての風格を持って在り続けられる駅としての存在感を示す一方で、周辺の里山や田園の風薫る風景と調和し、親しみや癒しを感じさせる。

多様な人と今まで温められてきた伝統・文化がふれあうことにより、「融合と創造」が生まれ、地域全体に活力を与える。

そういった癒しや活力を得て、ここ南越駅（仮称）を起点として、未来が始まっていく。

(2) 道の駅的施設等の検討

① 参考 ～先進事例における取り組み～

「交流の起点」



道の駅「とみうら」



物販施設



アトリウム
(イベント・休憩スペース)



飲食施設



情報提供施設

【年間利用者】 約50万人 【売上高】 約5億円

【特徴】 地域の観光資源をパッケージ化し、旅行会社へ販売。着地型観光による地域事業者への経済波及を実現。

「伝統・文化とのふれあい」 「人とのふれあい」



道の駅「あらい・伊達な道」



飲食施設



物販施設



田楽小屋



直売所



多目的ホール

【年間利用者】 約341.7万人 【売上高】 約11億7,400万円

【特徴】 地域住民も利用できる施設の設置や、地域の史実・文化(知的好奇心)に基づく観光ルートの創設、及び既存コミュニティ交通の観光周遊ルート上での運行により多くの利用者を獲得。

「整備手法」

道の駅「ようか 但馬蔵」



情報提供施設



物販施設



バスターミナル



直売所



飲食施設

【年間利用者】 約23万人

【特徴】 PFI整備により、市が直接事業を実施する場合と比較して、財政支出額を削減(財政負担額は2億3,400万円が1億3,900万円と約4割に)

「駅前の顔づくり」

オガール紫波



直売所



図書館



民間複合施設
(体育館/ホテルなど)



庭園ラウンジ



情報交流館
(市民活動スペース)

【年間利用者】 約73万人

【特徴】 地域住民も利用できる施設の設置と、ターゲットを特定した施設整備により多くの利用者を獲得。庭園ラウンジは地域住民と来訪者の憩いの場・イベントの場として機能。

特徴的な外観デザイン



地元の木材を使用した外観デザイン
(道の駅「たかの」)



ゆるやかな屋根で周囲と調和した
外観デザイン(道の駅「しもつけ」)



ガラス面がシンボリックな外観デザ
イン(道の駅「なぶら土佐佐賀」)

② 施設の検討

交流の起点

① 地域の価値や魅力を向上させるゲートウェイ施設

地域を訪れた人が最初に訪れるゲートウェイとなり、地域の総合窓口として、クラフトツーリズム（仮称）やグリーンツーリズム等の観光受付窓口の設置や、観光にとどまらず知的好奇心を刺激する機会を提供したりして、地域の価値や魅力を向上させるとともに、地域資源に誘導する着地型観光の受入基地として機能する施設を整備する。

伝統文化とのふれあい

② 匠の技にふれあえる伝統産業交流施設

③ 伝統産業製品を購入できる物販施設

各地に点在する伝統・文化、匠の技に触れる機会を提供して、地域の価値や魅力を向上させるとともに、人の交流によって新しい価値や魅力が創造できる場として機能する施設を整備する。

人とのふれあい

④ 地域の特産物や加工品を購入できる物販施設

⑤ 地域の食材や加工品を味わえる飲食施設

コウノトリが舞う里で育った特産物や加工品を来訪者や地域住民が買い求めたり味わえたりして、楽しめるとともに、特産物を通じて、来訪者と地域住民の交流の機会を提供したり、地域のコミュニティが活性化したりする場として機能する施設を整備する。

⑥ 地域のイベント等を開催できる多目的広場

地域住民や大学等、地域の団体のイベント会場となったり、各地のイベントのサテライト会場となったりして、駅周辺に賑わいを添えたり、イベントの魅力を伝えて本会場に誘導したりできる場として機能する施設を整備する。また、災害時は交通結節点を生かした防災機能が発現するように整備する。

自然とのふれあい

⑦ 来訪者や地域住民がやすらぎ癒される修景施設

散策や休息にいきなると、やすらぎ癒される魅力的な空間であるとともに、駅周辺の施設を緩やかにつなぐような修景として機能する施設を整備する。

⑧ (オプション)コウノトリが舞う里や新幹線を眺められる展望

隣接する里山を活用し、田園や山並み、その風景の中を走り抜ける新幹線を眺められる心地よい展望空間として機能する施設を整備する。

道の駅的施設

修景施設

③ 施設の活用イメージと規模

① 地域の価値や魅力を向上させるゲートウェイ施設

【活用イメージ】

- 多メディアや多言語に対応した地域情報やイベント情報を案内(数十㎡程度)
- 地域の史実・文化などをテーマに地域の観光資源をパッケージ化して提供し、着地型観光を促進、地域への波及効果を拡大
- 道路交通状況や地域資源へのアクセス情報の案内窓口(100㎡程度)
- 休憩場所の提供(100㎡程度)
- レンタカーサービスの提供(数十㎡程度)

【規模】

- 300㎡程度(道の駅設計における各種手引きにもとづく施設規模にレンタカー窓口面積規模を加算)



② 匠の技にふれあえる伝統産業交流施設

【活用イメージ】

- 伝統産業製品や和紙などを活用して制作されたアーティスト作品の展示(100㎡程度)
- 製作などの体験イベントの提供
- 地域住民の作品展示や様々な活動の場として気軽に使える多目的スペース

【規模】

- 300㎡程度



⑤ 地域の食材や加工品を味わえる飲食施設

【活用イメージ】

- 田園や山並みを眺めながら味わう郷土料理や地域の特産品を活用したメニューを通し、地域の食の魅力を体感
- 食をテーマとした地域内観光の発信拠点としても活用

【規模】

- 300㎡程度
(道の駅事例における平均的な飲食施設規模)



⑥ 地域のイベント等を開催できる多目的広場

【活用イメージ】

- 地域のイベントのメイン会場及びサテライト会場として利用し、駅周辺のにぎわい創出及び地域内のイベント会場への来訪を誘発
- 地域住民や来訪者の憩いの場やイベント会場として利用
- 交通結節点を活かした災害時の防災機能の発現

【規模】

- 3,000㎡程度



③ 伝統産業製品を購入できる物販施設

【活用イメージ】

- 伝統産業の商品や作品の販売を通じたブランドイメージの発信や販路拡大

【規模】

- 300 m²程度
(道の駅事例における平均的な物販施設規模)



④ 地域の特産物や加工品を購入できる物販施設

【活用イメージ】

- 地域の食材や加工品、土産物の販売
- 生産者や地元企業等と連携したオリジナル商品の開発、販売

【規模】

- 500 m²程度
(道の駅事例における平均的な物販施設規模)



⑦ 来訪者や地域住民がやすらぎ癒される修景施設

【活用イメージ】

- 四季の花を感じられる散策空間
- 駅舎と周辺の施設、周辺の自然を緩やかにつなぐ修景的な施設

【規模】

- 7,000 m²程度



⑧ (オプション) コウノトリが舞う里や新幹線を眺められる展望

【活用イメージ】

- 周囲の田園や山並み、その風景を走り抜ける新幹線を眺める

【規模】

- 400 m²程度
(芦山公園展望空間を参考とした規模。アクセス路の面積は含まない)



③ 道の駅的施設・修景施設の規模の合計

施設分類	面積
◆ 道の駅的施設	10,730㎡
① 地域の価値や魅力を向上させるゲートウェイ施設	300㎡
② 匠の技にふれあえる伝統産業交流施設	300㎡
③ 伝統産業製品を購入できる物販施設	300㎡
④ 地域の特産物や加工品を購入できる物販施設	500㎡
⑤ 地域の食材や加工品を味わえる飲食施設	300㎡
⑥ 地域のイベント等を開催できる多目的広場	3,000㎡
駐車場（道の駅及び公園の設計における算定手法による算定：小型車88台※ 大型車23台）※レンタカー駐車場含む	5,340㎡
緩衝緑地（敷地外周に道路構造令に基づき2mの植栽帯）	690㎡
◆ 修景施設	7,000㎡
⑦ 来訪者や地域住民がやすらぎ癒される修景施設	7,000㎡
合 計	17,730㎡

(3) 2次交通の検討

- 道の駅的施設や修景施設への来訪や、2つの「まちなか」や周辺市町とのアクセスのための二次交通を検討する。

【南越駅～武生駅間のバスの運行】

- ・南越駅と最寄り鉄道駅となる武生駅を連絡するバスの運行

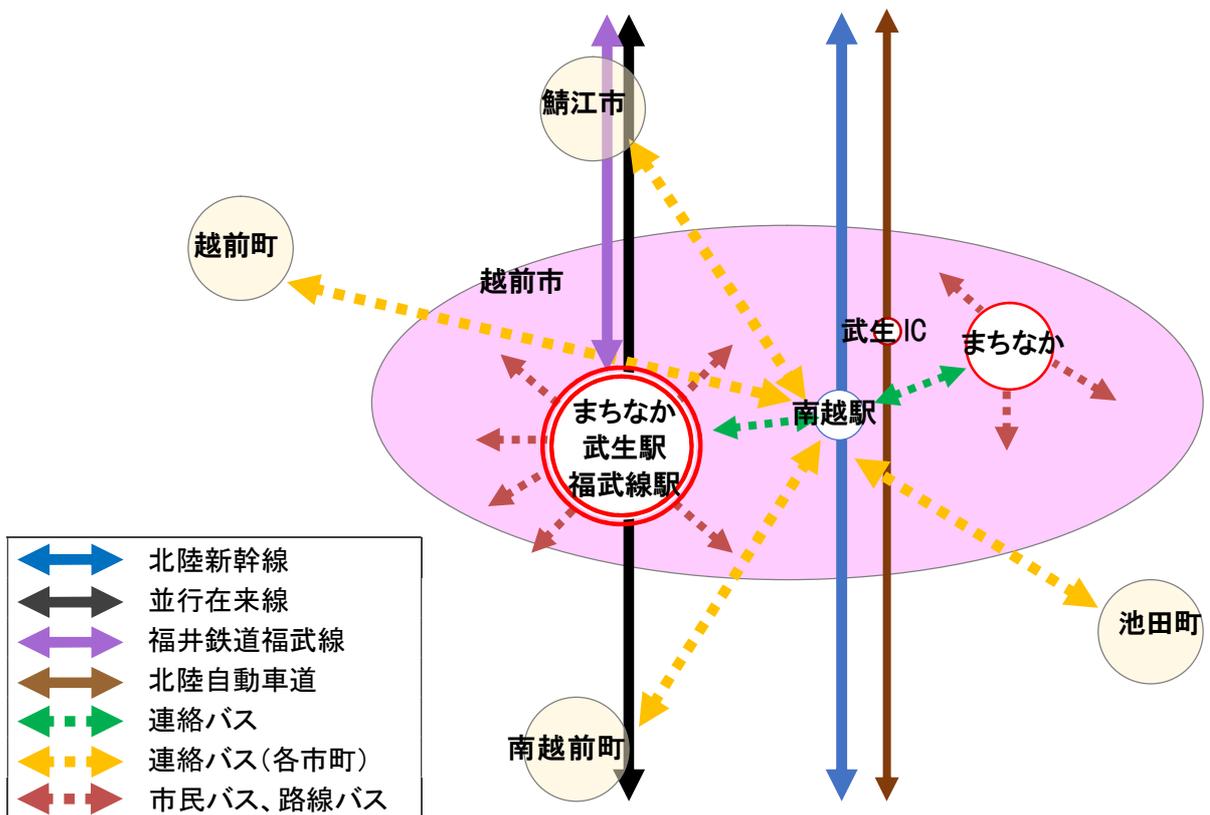
【南越駅～今立総合支所間のバスの運行】

- ・越前市東部地域の拠点である今立総合支所と南越駅を連絡するバスの導入を検討

【丹南地域各市町から南越駅へのバスの運行】

- ・丹南地域における各自治体、バス事業者、その他関係機関等との協議を踏まえた、並行在来線の主要な駅・鉄道のない地域へのバス運行などによる丹南各方面へのアクセスの確保

(二次交通のネットワークイメージ図)



① 駅前広場の規模の検討

施設分類			施設量	面積
駅前広場	バス	シャトルバス	1	350㎡
		コミュニティバス	1	
		高速バス	1	
		観光バス等	1	
		降車専用	1	
		滞留スペース	—	5㎡
		小計	—	355㎡
	タクシー	バス	2	40㎡
		滞留スペース		5㎡
		プール	3	90㎡
		小計		135㎡
	一般車	バス	1	20㎡
		短時間駐車スペース	33	900㎡
		小計		920㎡
	歩車道部分		1,010㎡	
	計		2,420㎡	
	環境空間面積		2,330㎡	
合 計				4,750㎡

②パーク＆ライド駐車場の規模の検討

パーク＆ライド駐車場の面積の算定(第1次算定)

【駐車場台数】590台 【面積】約1.8ha

内 訳	駐車台数	駐車場面積
①新幹線利用者	540台	16,000m ²
②高速バス利用者	50台	1,500m ²
合 計	590台	17,500m ²



南越駅利用者の端末交通手段の構成比(武生駅利用者アンケート調査結果)

端末交通手段	各調査における駅端末交通手段割合				今回設定値
	平成元年 福井都市圏 PT	南越駅 周辺整備 計画推計値	平成17年 福井都市圏 PT	武生駅アンケ ート調査結果 (新駅利用)	
自動車	キス&ライド	2.6%	23.0%	34.9%	25.7%
	パーク&ライド	7.5%	67.0%		40.5%
	タクシー	2.9%	3.0%		20.3%
	レンタカー	—	—		1.4%
路線バス等公共交通		7.3%	7.0%	3.6%	6.8%
その他(徒歩・自転車)		79.7%	—	61.5%	5.5%



武生駅北駐車場複数日利用状況を踏まえた駐車場台数の補正

		①駐車場需要	②複数回数による構成比	③利用回数別駐車場需要内訳 ①×②	④駐車場利用日数	⑤P&R駐車台数 ③×④
利用回数	単	362	37.1%	134	1.00	134
	複数		62.9%	228	2.00	456
計		362	100.0%	362		590



パーク＆ライド駐車場の計画

内 訳	駐車台数	駐車場面積
新幹線利用者 + 高速バス利用者	600台	18,000m ²

③基本テーマの規模の合計

駅西側
(約 2.3ha)

■駅前広場 (4,800㎡)
(自家用車関連施設・バス関連施設)
(タクシー関連施設)

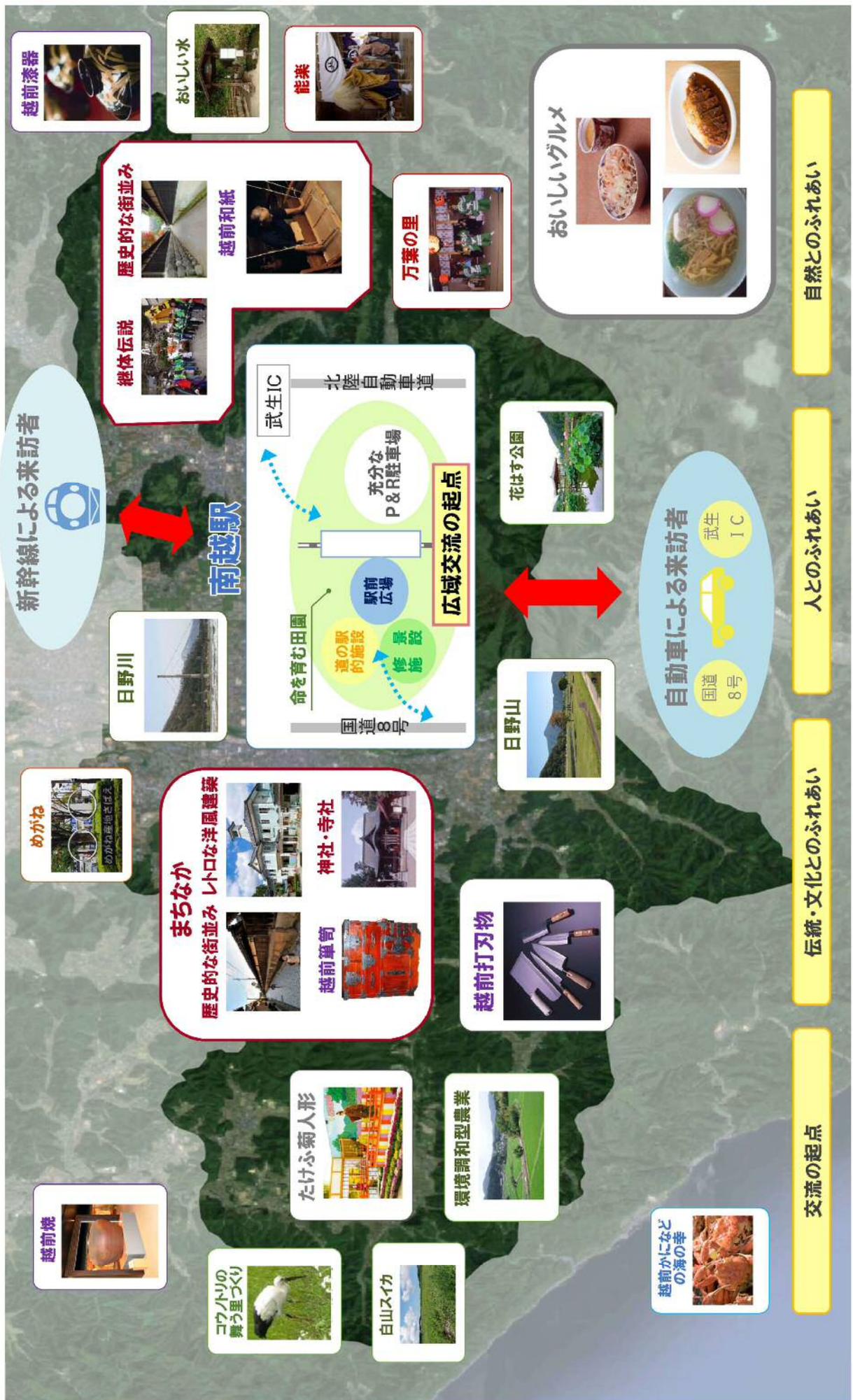
■道の駅的施設 (8,000㎡)
■イベント空間 (3,000㎡)
(防災機能を含む)

■修景施設 (7,000㎡)

駅東側
(約 1.8 ha)

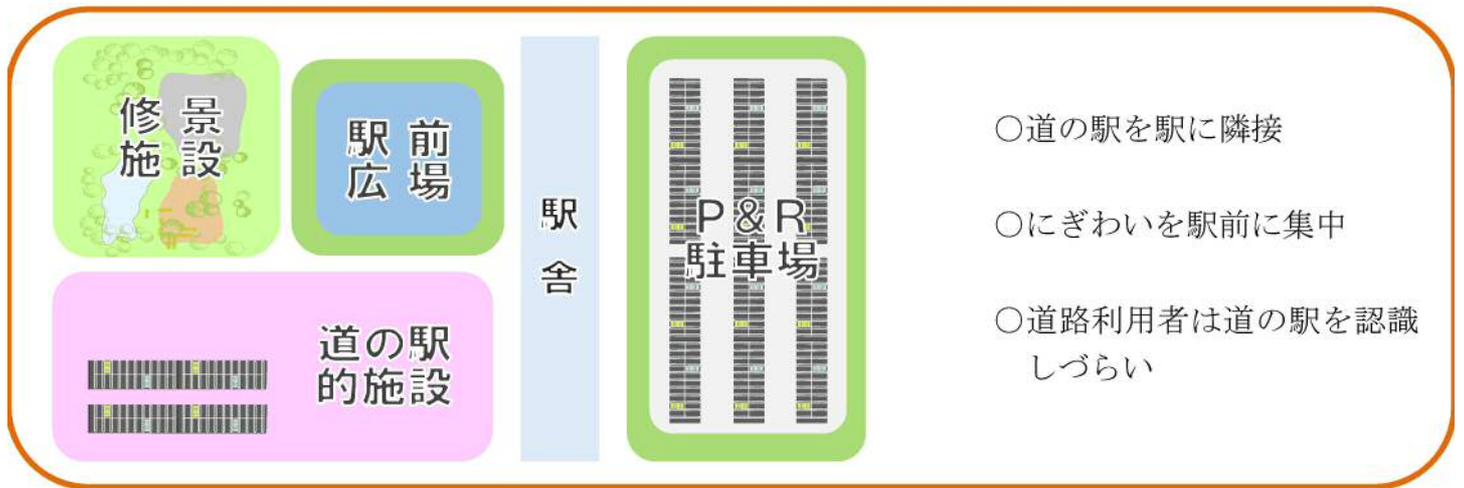
■パーク&ライド駐車場 (18,000㎡)

南越駅周辺整備イメージ

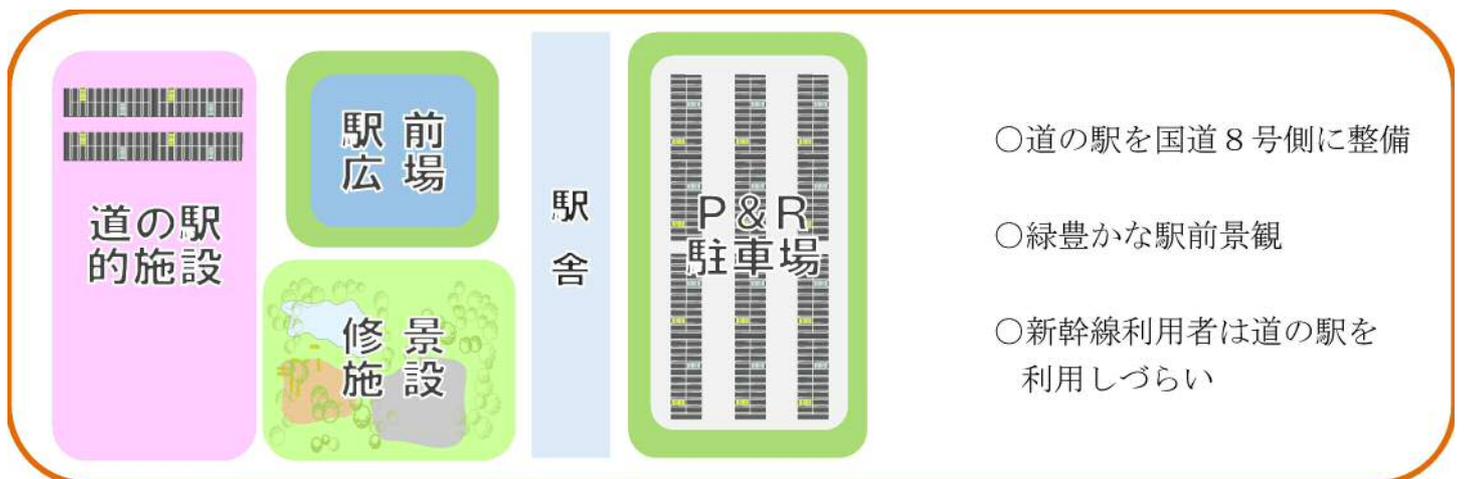


(4) 配置計画

パターン①



パターン②



パターン③

